



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和7年(2025年)
3月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

みんなが幸せな学校

校長

創立150周年を迎えた今年度もまもなく終わろうとしています。3月18日には、150期生である6年生109名がこの箕面小学校を巣立っていきます。早いものでこの学校だよりも最終号となりました。

みなさんにご協力いただいた学校教育自己診断の結果が先日返ってきました。詳しくは2ページ目以降をご覧ください。すべての結果、記述項目に目を通し、一年に一度これまでの学校経営を振り返らせていただく貴重な機会としています。ご協力ありがとうございました。そのアンケート項目の中で、とりわけ気にかけているのが、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」という項目です。本校では「あまり当てはまらない(10.6%)」、「まったく当てはまらない(2.2%)」を合わせて12.8%の子どもが否定的な回答をしています。

子どもたち、保護者、地域の方、教職員みんなが幸せに感じられる学校でありたいと願い、学校経営を進めてきました。「楽しみ」＝「幸せ」と端的にとらえてよいかはわかりませんが、10人に1人以上の子どもが「学校を楽しんでない」と思っているならば、大きな問題を投げかけられていることだと私は考えています。

世の中の情勢や価値観は目まぐるしく変わり、幸せとを感じる基準もどんどん変化しています。学校の役割も様々なことが求められる時代です。ましてや、一人ひとりが幸せとすることも同じではありません。このアンケート結果を見るたびに、みんなが幸せな学校づくりの難しさや自分の無力さを実感するとともに、それでも100%をめざしたいと決意を新たにします。しかし、突き詰めれば突き詰めるほど、それは決して学校だけでできるものではないことにも気づかされます。教職員のみならず、保護者、地域の方々、子どもたち自身の力や願いがひとつにならなければ成し遂げられません。

「学校は『ある』ものではなく『つくる』ものだ」とおっしゃった人がいます。まさに、この「つくる」の主語は教職員だけではないのだと、実感する場面がたくさんありました。子どもたちの日々の頑張り、保護者や地域の方の日々の子どもたちへの見守り、学校への叱咤激励、150周年にむけての活動、寄付金、教職員の子どものまなざしや日々の授業準備…。挙げればキリがありません。

わたしの大好きなこの箕面小学校の持つあたたかな雰囲気は、ただ150年ここにあったにとどまらず、150年でつくられてきたものです。そして、みなさんとともに、現在進行形で箕面小学校をつくっている一員ということに心から誇りとやりがいを感じています。

最後になりましたが、こういったことをじっくり振り返ることができるのも、保護者・地域のみなさんの多大なる支えがあつてのことです。心より感謝申し上げます。少し早いご挨拶となりますが、この1年間のご支援、ご協力ありがとうございました。